

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成23年度病虫害発生予察注意報第1号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成23年度病虫害発生予察注意報第1号

農作物名 早植水稻
病虫害名 いもち病（穂いもち）

- 1 発生地域 中山間地
- 2 発生時期 出穂期以降
- 3 発生程度 多

4 注意報発表の根拠

- ア 8月11日に中山間地の早植水稻地帯で実施した調査では、葉いもちの発生を12ほ場中10ほ場で確認した。ほ場内での発生状況は、発病株率49.0%、発病度15.2で、8月中旬の巡回調査の平年値（発病株率8.4%、発病度2.4）と比較して多かった。葉いもちを確認した全ほ場で、穂いもちの伝染源となる上位葉の発病を確認した。また、出穂したほ場の一部で穂いもちの発生が確認された。
- イ 矢部試験地（山都町）の無防除田における8月上～中旬の葉いもち病斑数は74.6個/株（昨年1.9個/株、一昨年26.0個/株）と、昨年・一昨年に比べ多い。
- ウ 予想される向こう1ヶ月の天候は、気温が高く降水量が平年並の予想であるが、中山間地は夕立や霧が発生しやすいため、いもち病の発生に好適となりやすい。

5 防除対策

- ア 穂いもちは発生後の防除が困難である。葉いもちの発生状況を確認し、発生が多い場合は、予防防除を行う。
- イ 粉剤や水和剤は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。
- ウ 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期以降に降雨が続き穂いもちの発生が予想される場合は、穂揃い期の7～10日後に追加防除を行う。
- エ 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使うとともに、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍率等を遵守する。

※なお、本文はホームページ「<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県病虫害防除所
（熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病虫害研究室 予察指導係）
担当：東 TEL 096-248-6490